

『君は君の人生の主演になれ』 鳥羽 和久 著 ちくまプリマー新書 2022 年 10 月発行

自分の人生の主演になる。それは「自分独特の生き方」をすることだと本書は述べます。しかしこれを阻み、各自の人生をのっとろうとしてくるものに、みなさんも心当たりがあるはずです。

たとえば中学時代に V 系バンドにハマり、髪型を左右非対称にして洒落こんでいた Y 君は、高校入学とともに頭を丸めました（細かった眉毛も毛虫のようになりました）。野球をやるために高校球児＝坊主という常識に跪いた、本書で言う「社会適応」です。「適応」と言えば何となくプラスに響きますが、「自分独特の生き方」を手放したとも言える（好きなことをする代償？ 野球と髪型に何の関係が！）。

ここで「周囲を気にせず、やりたいようにやれ」と説くだけならよくある本でしかない。その点本書は「適応」の実態を深く掘り下げ、その繰り返しのよって感覚が麻痺し、「自分独特の生き方」を手放したり、のっとられたりしても気付かなくなる事態に言及します。つまり、「やりたいように」のその「やりたい」が親、教員、クラスメイト、そして社会といった他者の欲望に置き換わってしまう、あるいはすでにそうなっているのに気付いていない可能性が示唆されるのです。

反対に、「嫌なことはしなくていい」といういかにも現代的なメッセージにも本書は与しません。嫌なことを楽しんでしまったり、辛さや苦しさが生きる活力となったりするのが「人生の矛盾」であり、それを経験するなかで生きる力が育まれていくからです。

「やりたいようにやれ」、「嫌なことはするな」という言葉は明快で聞こえがいい。しかし人生はそんな単純なものではないのです。本書は、「やりたい」が自分の欲望ではないかもしれないような、嫌なことにも快楽や活力の源泉があるような、単純に白黒つけられない複雑な現実を複雑なまま見ることを呼びかけていて、その手解きにもなっている。本書を介して矯正された視力の先に、自分の人生の主演の座が見えてくるはずです。(801 字)